

やなぎのあとち (2)



■ 発行者 植柳校跡地問題を考える会

■ 連絡先 柳町 大屋峻

植柳跡地 ニュース

京都市担当部長

議会で 虚偽発言

6月17日の京都市議会総務消防委員会で植柳校の跡地問題が議題として取り上げられた。「4月の植柳自治連合会の総会で跡地活用についての議決はあったのか」という質問に対し、京都市の長谷部部長は、総会の議題にすら上っていない事を「京都市の跡地活用の決定を尊重し進めていくことが、賛成多数で可決された」と答えた。

(裏面につづく)

川柳俳句短歌
一コマまんがなど
お寄せ下さい



六十年も

植柳小を

貸すなんて

さらっと言って

しまっていていいの

京都市担当部長の虚偽発言

京都市資産活用推進室の長谷部長とは、植柳サロン室で3回開催された「跡地活用説明会」の京都市の担当者です。その長谷部長が、「植柳総会において可決された」と、市議会で嘘を言いました。そもそも総会の**議題にさえ上っていない物を、どうして可決することができるのでしょうか。**不思議です。

総会の議題は何だったのか？

4月の植柳自治連合会総会の第3議題は、跡地活用に関する「三者協議会のメンバーの**選定**」でした。三者協議会とは、京都市が推す「ホテル+地下避難所案」の現実的な問題点などを話し合い、検討する協議会です。この協議会の参加メンバーを決める前に、せっかくの総会なので、みんなで跡地計画について話し合いたいという提案が、多数の出席者から上がりました。しかし、植柳自治連合会は、「議題とは異なるので認めない」と言い、出席者の質問は打ち切られました。植柳校跡地に関する採決は、「三者協議会参加メンバーの決定」のみであり、**京都市の計画自体が賛成多数で可決されたわけではないのです。**

どうしてウソをついてまで

京都市はどうして嘘をついてまで、住民の多くが跡地利用の計画を賛成しているような、印象操作をおこなうのでしょうか。17日の京都市議会は、「住民多数の賛成により京都市の案が可決した」という前提のもとで、審議は進められました。これは大きな誤りです。この嘘の上に積み重ねられる「三者協議会」とはいったい何なのでしょう。

ウソを根拠に始まる三者協議会は中止しなければなりません。(次号につづく)

植柳校跡地問題を考える会は、ほぼ月2回、10人ほどが集まっています。会といっても決まりなどは無く、来るのもやめるのも自由な集まりです。世界文化遺産「西本願寺」の寺内町にできた植柳校は、長い間、学区民のこころの拠り所であるとともに、重要な防災拠点となってきました。住民が建てたこの大事な植柳校を手放してしまうことのないように、穏やかな暮らしがこの先もつづくようにと、話し合っています。気軽にのぞいてみて下さい。お待ちしております。

(大屋 峻)

問題発言は
コチラの動画
34:50~から

